

S 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。
HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきれずにきれいに取り除いてください。

マーク例

①	1	2	3	4	5
○	○	●	○	○	○

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

ちよつとした国語辞典を引いて、「我」とか「己おのれ」とか「自分」という一人称をあらわす言葉への説明を見れば分かることだが、⁽¹⁾日本語には「一人称と二人称の区別」がない。「我」は、「自分をさす言葉」であると同時に、「二人称の他人をさす言葉」でもあって、「己」も「自分」も同じなのである。「自分」などという、近代になつて一般的になつたと思えない言葉でさえ、「自分||他人」の構造になつてきているのはちよつとびっくりするが、しかし、そうなのである。

だから、関西系のお笑いタレントは、平気で「自分、今なに言うた?」と、目の前の他人に言うのである。これが、「私は今なにを言ったか?」の疑問ではないこと、言うまでもない。同様に、「我エ、しばくぞ」も、「お前を殴るぞ」であつて、「私を殴るぞ」でも「私が殴るぞ」でもない。目の前にいる他人、あるいは目の前にいない他人を二人称として想定し、怒りや怨念をぶつける時のクラシカルな表現は、「おのれエ!」である。「己||一人称の私」は、そのまま「怒りをぶつけられる二人称」なのである。

一人称と二人称の区別がない日本語の中では、「これは一人称なのか? 二人称なのか?」という判断が日常的に起こる。「自分に理解出来ないような表現をする方が悪い!」という、近代合理主義的な抗議は、意味を持たないのである。伝統的な日本語論理からすると、「自分に理解出来ないような表現をする方が悪い」という抗議は、「私に理解出来ないような表現をするあなたが悪い」という意味と、「お前に理解出来ないような表現をするお前以外の誰かは悪いやつだ」という意味と、さらには「自分自身でさえ理解出来ないような表現をするこの自分自身が悪い」との、三通りの意味を持つてしまふのである。そんなメチャクチャな言葉を使って意志の疎通を図ることが可能なのは、日本語が、「その言葉の置かれた文脈に従つて、言葉の意味を理解する」という、思考技術を前提にしているからである。つまり、「自分のことを考えるに際して、他人」という迂回路を通る」を当たり前にしているのである。

一人称と二人称の区別——「自分」と「目の前にいる自分以外の他人」の区別がないというのは、大昔のことでもあろう。それじゃ困るから、「自他の区別」を明白にするような近代自我も、この日本には必要とされたのである。がしかし、今の日本のテレビの画面に、「自分、今なに言うた？」のタグイを平然と口にする人間が登場して「人気者」になっているのも、事実なのである。

なんでなんだろう？——ということ、大昔の日本に即してではなく、「自分、今なに言うた？」を口にする「人気者」のいる現在に即して考える。私に思い当たる理由は、「あ」である。

一人称と二人称を同じ言葉ですませてしまう言葉を使う日本人ではあるが、しかしだからと言って、「日本人は自と他の区別をつけない」というわけではない。日本語の中には、ちゃんと「自他の区別」がある。だから、「自分、今なに言うた？」を言う人間だって、「自分、知つとるやろ？ こないだ会った山田さんな」という日本語を使うのである。つまり、一人称と二人称の区別を曖昧にする——平気で放棄する日本人は、三人称の形でなら、明白に「自他の区別」をつけるのである。

これはどういうことか？ 「目の前にいる他人なら」「一人称||二人称」の一体化は図れるが、目の前にいない他人とは一体化が図れない」ということでしかないだろう。なにしろ、他人に「なア、自分」と呼びかけてしまふ人は、平気で初対面の相手にも、この「自||他」を適用してしまうからである。「自分||他人」が親しさの結果なら、こんなことは起こらない。起こるのなら、「目の前にいる他人は」「自分とイコール」だが、目の前にいない他人にはそれが起こらない」ということであつてである。だから、「あいつ」という不思議な三人称もあるのだろうか。私に勝手に思うのである。

「あいつ」という言葉の中には、親近感がある。そこに**プベツ**のニュアンスや敵対感情が含まれていたとしたって、その元は「近い他者」という親近感である。「目の前にいれば当然」「自分」になつてしまふが、目の前にいないから「あいつ」になる」という、そんな特別な親近感がそがれる三人称の代名詞がある。これが複数形の「あいつら」になつたら、当面の敵対する集団でもある。「最も強く意識せざるをえない集団」という認識の必要

があればこそ、「あいつら」という三人称複数はあるのだろう。そう考えると日本人は、「自分自身と目の前にいる他人」と「目の前にはいないが関心を持たざるをえない他人」と「その他」の三つに他人を識別しているように思われる。「①」↓「②」↓「③」↓という、距離の遠さが、日本人にとっての「一人称、二人称、三人称」という区別の感覚なのかなアとも思えるのである。

だから、「家族」は一つで、「ウチ」と「よその家」の区別だけがある。家族を構成する人員が一人一人「自我」なんかを持ってしまうと、家族は崩壊の危機に瀕してしまうという、悲しい弱点を日本人は持っているのかもしれない。「ウチ」は一つにまとまっけていて、その外に「知らない人」がいる。「知らない人」と「ウチ」の間に「知ってる人」がいる。「知らない人」が「いい人」かどうかは分からないが、「知ってる人」は、みんな「いい人」だ。知ってはいるが「やなやつ」だったりすると、「知ってはいるけど、よく知らないんですよ」の三人称化がはかられる。日本人にとって、「三人称」というのは、よくも悪くも「関わりを持ちたくない存在」なのだろう。

というわけで、日本人は、自分を「一人称複数」の形で持っている。「一人称複数」であることが当たり前だから、家族がバラバラになると寂しい。妻は夫に対して、「私はあなたの所有物じゃないの」と言い、年頃になって親の束縛がうるさくなつた子供も、似たようなことを言う。家族は、「一人称複数」だから、つまり「他人≡自分」なのである。他人に向かって自分の親を「お父さん」「お母さん」と言つてのける子供も、「一人称複数自我」の日本人なんだろう。

自分が単数≡独りであると寂しい——そう思えば、自分は「一人称複数」になる。「一人称複数の中の一人」として存在して来た人間にとって、その慣れた「複数形幻想」を捨てるのは寂しい。だから、「自分のことを考える」と言われるとまず「自分のこと」を考えるを当然としていたつもりであつても、どこかで曖昧が生まれる。もう何年も前になるが、私はあるところで「私達の世代は——」とこののを聞いて、びっくりしたことがある。「どうして『私の世代』じゃないんだ？」と、そのいきなりの「一人称複数」ぶりに驚いた。「同世代」っていうだけで一括りになんかしてほしくないよな」と思うこと明白な私にしてみれば、「いつからそんな一体化が当た

り前になっちまったんだ？」というような、a 驚きである。

「自分のあり方」を証明する基盤としての「家族」や「地域社会」が曖昧になって、「学校でみんなと一緒」であることの方が重要になってしまったら、その一体化は「私達の世代」や「ぼくらの世代」という言葉を生むだろう。

私にとって、「同世代を語る」というのは、ほとんど他人^{ひとごと}事である。「私の世代」と言っても、「私」に力点はな
い。「私の」がつく、「同世代」という他人のことである。「いっしょくたになってもいい他人」もいれば、「いっ
しょくたにされたくない他人」もいる。だから、「私の世代」とは、「他人の集団」である。世代的一体感が持て
ないのは一種の不幸かもしれないが、私は別に「ぼくら」とか「オレら」とか「私たち」というような言葉を欠
落させているわけでもないのです、一向にかまわない。「オレらはそんなことしてなかったよなア」とか、「だって、
オレらはあん時ああいう風にしてたじゃん」とかいう、過去の一体感を語る言葉だつてちゃんと持ち合わせてい
るが、それは別に同世代に限ったことじゃない。「一人称複数形の一体感」は、成り立つ時にだけ成り立てばいい
のである。それをいきなり、「私達の世代」という、一人称複数の拡張形にしちゃって、そこにいる「自分」はど
うなるんだろう？——と思う。

あるいは、自分の所属する同世代を語るのに、「自分の世代は」としてしまうことに、b を感じて、「自
分達の世代は」の複数形にしてしまうのかもしれない。別に、そんなことをためらう必要は全然ない。「自分の所
属を距離を置いて語る」は、「他人」というものが存在する社会での知性の第一条件でもある。「私が代表して語
ることによって、私の所属像が歪められてしまうことを恐れる——だから、私は複数形になって私の所属を語る」
というのは、実のところメチャクチャである。「あなたはそんなに、自分の所属に縛られているのか？」と言いた
いようなものである。

「私達の世代はこうだ」と言つて、そこに同じ世代の人間から、「でも、私にはそうは思えませんでした」とい
う異論が出されたらどうするのだろうか？ その異論を出す人間は、「私達＝同世代」という一体感から排除されて

しまっているのである。⁽²⁾「私達の世代は」といういきなりの一人称複数、実は、いじめを成り立たせる無意識的前提でもあるのである。

人は、「一人称複数の一体感」を求める。それは、確かである。しかし、「自分は一人称複数の一体感の中にずーっと続けて、そのままになっていく」というのは、へんである。だから、「自分は一人称複数の一体感の中にずーっと続けていて不幸である」という続き方だつてある。「幸いなことに、自分は一人称複数の一体感の中にずーっと続けて幸福でした」という実感の持てる人がいたとしても、それが万人に成り立つわけでもない。それよりも重要なのは、「自分が『自分』を想起する時、『一人称複数形』にしていなか？」と考えることである。「自分は既に『自分達』という一人称複数形の中の一員として存在している」という前提に立っていることに気づかないと、「自分のことを考える」という思考は、とんでもなくへんな方向に行つてしまう。

「自分」はそのまま「自分達」で、そこにもう「他人」は存在してしまっているのだから、なにか「自分」でなにか「他人」かは分からなくなる。「自分」と共に「自分達」を形成していると思える「他人」は、果して「自分」なのか、「他人」なのか？

そこを曖昧にしていると、「自分のこと」を考えているつもりで、考えているのはいつも「他人のこと」になる。「他人のこと」を考えているつもりで、考えているのは「自分のこと」だけになる。更には、自分と一緒に「自分達」を形成している他人のことを考えて、それで「他人のことを考えている」と思ったつて、「自分達の外側にいる他人」のことはまったく考えていないことになる。

⁽³⁾「自分||自分達」という錯覚は、実は、多数決原理の民主主義社会の中で、とつても起こりやすいことでもある。「自分||自分達」の一体感をあまりにも信じ込みすぎると、「自分達以外の他人」は、平気で無視ポクメツの対象になってしまう。そして、「自分||自分達」が、実は思考による幻想の前提でもある以上、「いると思つていた、自分と一緒に『自分達』を構成している他人」は、瞬時にして消滅してしまうのである。

(橋本治「他人」はどこら辺に居るのか?)による)

問

(A) 線部(イ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書かいしよで記すこと)

(B) 線部(1)について。なぜ日本語は「一人称と二人称の区別」がなくても困らないのか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 自分のことを表現する前に他人がそれをどう思うかを推察する思考パターンが身についているから。
- 2 自分と他人の関係を曖昧にして表現の主体がどこにあるのかを明らかにしない言語構造だから。
- 3 そのときどきの局面や文脈に応じて他人の言葉を理解し意志疎通を図ることに慣れているから。
- 4 言葉は自分を主張する道具ではなく他人との敵対を回避するための手段だと考えられているから。
- 5 「一人称の私」という近代合理主義と「自他」を明確にしない伝統的論理を共存させているから。

(C) 空欄 あ に入る表現として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 やつぱり「人気者」になるためには、視聴者に親近感を覚えさせなきゃならないんだろうな
- 2 やつぱり「自分は独りだ」を当たり前の前提にしちゃうと、寂しくなっちゃうからだろうな
- 3 やつぱり「テレビの世界」っていうのは、日本語の正しさなんかより話術が大事なんだろうな
- 4 やつぱり「自||他」の区別を明確にすると、不都合なことが多くなっちゃうからだろうな
- 5 やつぱり「みんな」っていうかたちで、共同体の秩序を大切にするのが一番平和なんだろうな

(D) 空欄 ① ③ に入る表現の組み合わせとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|---|-----|---------------|---|------|
| 1 | ① | 親近感 | 関わりを持ちたくない | ③ | やなやつ |
| 2 | | 私たち | あいつ | | あいつら |
| 3 | | ウチ | 最も強く意識せざるをえない | | ヨソ |
| 4 | | 自分 | 家族 | | 他人 |
| 5 | | 一体化 | 一体化は出来ないが知ってる | | 知らない |
- (E) 空欄 a b に入る表現として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、それぞれ番号で

答えよ。

a				
5	4	3	2	1
目を抜く	目を塞ぐ	目を剥く	目を奪う	目を憚る

b				
5	4	3	2	1
僭越	呵責	羞恥	欺瞞	責任

(F) 線部(2)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 「一人称複数の一体感」は幸福だという考え方が一般化することによって、そうは思えない人たちの生きづらさが増し、やがて集団のなかの異物として排除されてしまうこと。
- 「私達の世代はこうだ」という特定の主張がなされることで、「私にはそうは思いませんでした」という意見が通らなくなり、やがて多数決の原理が集団を支配するようになること。
- 「私達Ⅱ同世代」というかたちで個々人が見えなくなると責任の主体が曖昧になり、やがて自分が気に入

らないものを排除しようとする陰湿な行爲が横行するようになること。

4 「私達の世代はこうだ」という一体感に浸ることで、逆に自分たちの外側にいる他人を想像できなくなり、やがて理解できない者は敵だとみなすようになること。

5 「一人称複数」を感じられるのは幸福だと考える人と、そのように束縛されるのは不幸だと考える人の対立が深まり、やがて世代としての一体感が失われているようになること。

(G) ——線部(3)について。「自分≡自分達」という錯覚は、なぜ「多数決原理の民主主義社会」のなかで起こり

やすいのか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 より多くの人が賛成したことが全体の総意となることで、逆に少数派の意見が抑圧されるから。

2 ひとりひとりの意見を尊重するために個人が自己主張をしなければならない、という逆説が生じるから。

3 全体の合意で意思を決定する建前に安住し、自分では何も考えない依存体質に陥りやすいから。

4 権力の集中化が図られることによって、誰もが集団に従属することを切望するようになるから。

5 個人のすべては全体に従属すべきだという考え方が蔓延し、自他の境界線が曖昧になるから。

(H) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 一人称複数形の一員としてものを考える自分に気づかないと、いつの間にか自分も他人も見えなくなる。

ロ 相手を「自分」と呼ぶお笑いタレントは、視聴者がテレビに何を求めているのかを熟知している。

ハ 一人称複数形の仲間意識は「へん」だし、できることならそうした一体感とは無関係でありたい。

ニ 日本語における三人称は、よくも悪くもその相手と関わりたくないというニュアンスを含んでいる。

ホ 日本人は、一人称で自分を語ることを恐れて二人称に仮託して自分を表現するという矛盾を犯している。

二 左の文章は、明代末期の文人・鍾惺がある人物の詩の選集のために後書きとして書いた二篇の中の一編である。これを読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点、送り仮名を省いたところがある。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

(1) 詩文多_レ多_レ益_レ善_レ者_、古_レ今_レ能_レ有_二幾_一人_{。(2)} 与_レ其_レ不_レ能_レ尽_レ善_、而_レ止_レ存_二スル_一ノ_二ニ_一シテ 一_レ篇_レ数_レ篇_レ一_レ句_レ数_レ句_レ之_レ長_、此_レ外_レ皆_レ能_レ勿_レ作_{。即_レ作_レ而_レ能_レ不_レ使_レ伝_、使_レ後之_レ読_者常_レ有_二其_レ全_レ決_レ不_レ止_レ此_レ之_レ疑_、思_レ之_レ惜_。之_、猶_レ有_中有_レ余_レ不_レ尽_レ之_レ意_上焉_。若_シ夫_レ篇_レ与_レ句_レ善_、矣_、而_レ不_レ能_レ使_二其_レ不_レ善_者不_レ伝_二於_レ後_、以_レ起_二後_レ人_、厭_レ棄_、而_レ善_者反_レ不_レ見_レ信_{。此_レ豈_レ善_、為_二必伝_レ之_レ計_者哉_{。故_レ夫_レ而_レ後_レ者_、上_レ也_。而_レ自_二みづか_一ラ者_、次_レ也_。而_レ待_二人_、一_レ者_、又_レ次_レ也_。古_レ人_、所_レ謂_二い_ハゆる_一数_レ十_レ首_レ数_レ首_レ之_レ可_レ伝_者其_レ全_レ決_レ不_レ止_。此_レ若_シ其_レ善_者止_レ此_レ而_レ此_レ外_レ勿_レ作_、正_レ予_レ所_レ謂_二作_レ其_レ必_レ可_レ伝_者也_。此_レ其_レ識_{其_レ力_、古_レ今_レ又_レ能_。}}}}

有^{ラン}幾^カ人^カ乎。

(鍾惺「題魯文恪詩選後二則」による)

(注) 1 篇与句善矣——たとえよい篇やよい句を作っている。

2 古人所謂数十首数首之可伝者、其全決不止此——古人の場合、後世に残っている数十首ないし数首の詩文はいずれも素晴らしく、伝わってしかるべきものだが、その人が作った詩文の全貌は決してこれだけには止まらないだろうと思われる。

3 予所謂——私の言う。この文章の前にあるもう一つの後書きに以下の考えが述べられている。

問

(A) ——線部(1)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 詩文に多様な語彙を駆使すればするほど高い評価を獲得する作者
- 2 詩文に盛り込む内容を増やすにつれて出来栄も上がる作者
- 3 作った詩文の大多数でいっそうの善行を人々に勧めている作者
- 4 より多くの人々が称賛すればするほど詩文の創作が旺盛になる作者
- 5 多数の詩文を作れば作るほど詩文の質も素晴らしくなる作者

(B) ——線部(2)の読みを記したのものとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 そのことごとくよきことあたはざるとともにすれば
- 2 そのあたはざるとともにぜんをつくせば
- 3 そのことごとくよきことあたはざらんよりは

- 4 そのつくすことあははずしてよからんよりは
- 5 そのつくすことあははざるよよくせば

(C) 線部(3)に述べられた読者の思いの説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 伝わった詩文が、今後どれほどの人々に読み継いでいってもらえるのか確信がもてないという思い
- 2 自分が読んだ詩文の余情があまりにも豊かなので、それを理解し切れたかどうか不安だという思い
- 3 伝わった詩文によるだけでは、作者の才能について正当な評価を下すことができないという思い
- 4 自分が読み得た詩文は、伝えるべき内容のごく一部しか表現できておらず、不満だという思い
- 5 自分が読み得た以外にも詩文が存在していたはずで、それを読めないのは飽き足りないという思い

(D) 線部(4)の読みを記したものとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 かへつてしんぜられざらん 2 しんぜられざるにそむかん
- 3 しんぜしめざるにかへらん 4 しんをみざるにそむかん
- 5 かへつてしんぜしめざらん

(E) 空欄

a

f

 にはそれぞれ、動詞「選」・「作」のいずれかが入る。その組み合わせとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | a | 作 | b | 選 | c | 作 | d | 選 | e | 作 | f | 選 |
| 2 | a | 作 | b | 選 | c | 作 | d | 選 | e | 選 | f | 作 |
| 3 | a | 作 | b | 選 | c | 選 | d | 作 | e | 選 | f | 作 |
| 4 | a | 選 | b | 作 | c | 選 | d | 作 | e | 作 | f | 選 |
| 5 | a | 選 | b | 作 | c | 作 | d | 選 | e | 作 | f | 選 |
| 6 | a | 選 | b | 作 | c | 作 | d | 選 | e | 選 | f | 作 |

(F) 本文の趣旨に合致するもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 優れた作者には、世に伝わらず埋もれた詩文が多数あるはずなので、全集の編纂へんさんが必要である。
- 2 一篇一句だけでも素晴らしい詩文が作れたら、他の駄作のほうが有名になっても作者として悔いはない。
- 3 詩文の作者は後世の読者の鑑識眼を信頼し、素晴らしいものだけが読み継がれていくことを期待してよい。
- 4 詩文が後世まで伝わって広く読まれるかどうかは、内容に含まれた教訓の深さによって決まる。
- 5 後世に伝わるに値する詩文以外は作らないでいられるほどの見識をもった作者は、めったにいない。

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

(注1) 大將殿年若くおはして、何事もすぐれたる人にて、御心ばへもあてにおはして、昔はかかる人もやおはしけむ、この世にはめづらかに、かくわざと物語などに作り出だしたらむやうにおはすれば、(1) やさしくすぎずきこと多くて、これかれ、袖より色々の薄様(注2)に書きたる文の、引き結びたる、なつかしきども、二つ三つばかりづつ取り出だして、常に奉りなどすれば、これかれ見給ひて、あるは歌詠み、色好む君達などに、(注3) 見せあはせ給ひて、この手(3)はまさりたり、(4) 歌なども、とりどりに言ひあへり。あるは見せ給はぬもあるべし。また兵衛督や、(注4) 少將たちなど、参り給へば、(5) かたみに女のことなど言ひあはせつつ、雨夜の静かなるにも、語らひ給ふ折もあるべし。月あかき夜などは、車にて御隨身一人二人ばかり、(注5) 何大夫などいふ人ども、代はる代はるかちより歩み、御車に参り代はりつつ、(注5) 古き宮ばら、あるは色好む所々に渡り給ひつつ、人々にうち紛れて遊び給ふに、琵琶、笙の笛などは、人も聞き知りなむとて、(7) 琴ひき、笛吹きなどぞし給ひける。

ある折は、歌詠む御逢(注6)まうで通ひける中に、本意なかりけるにや、女、かねてより思ひしものを伏し柴(注7)のこるばかりなる嘆きせむとは

とて奉りければ、やがて「伏し柴」(4)とつけ給ひて、折節にはおとづれ奉りければ、「今宵は伏し柴、音すらむものを」(注8)などあるに、過ぐさず歌詠みて奉りなどして、(9) いたき者として、常に申しかはす者ありけり。土御門の前の齋院(注9)のもとに中將の御とか言ひける者とかや。

(注9) 北の方は、近き歌詠みにおはして、いと優なる御仲らひになむありけるに、(注10) あまりほかにやおはしけむと聞こえしは、鳥羽院位の御時に、(注11) 大將殿の菊を掘りにやりて、奉り給ひけるに、薄様に書きたる文の、結びつけて見えければ、帝御覧じつけて、「かれは何ぞ。取りて参れ」と、(注12) 藏人に仰せられるに、(注13) 大臣殿のふと心得て、色も変はりて、うつぶし目になり給へりけるほどに、文かと広げて御覧じければ、

九重にうつろひぬとも菊の花もとのまがきを忘れざらなむ

とぞありける。后(注14)の御姉におはすれば、時々参り通ひ給ふにつけつつ、忍びて聞(ロ)こえ給ふことなどもおはしけるなるべし。

〔今鏡〕による

(注) 1 大将殿——源有仁。漢詩や和歌に優れ、琵琶・笙の名手でもあった。

2 薄様——薄手の和紙。

3 兵衛督——藤原実能。

4 少将——藤原公教。

5 古き宮ばら——世間から忘れられた皇族。

6 御達——ご婦人たち。「御」は婦人の敬称。

7 伏し柴——柴(山野に生える、小さな雑木)の別称。

8 土御門の前の齋院——禊子内親王。白河院の皇女。

9 北の方——有仁の正妻。藤原公実の娘。

10 あまりほかにやおはしけむ——倫理的に見てあまりに度を越していただろうか。

11 大将殿の菊を掘りにやりて——有仁が自邸の菊を掘りに人を遣わして。

12 大臣殿——有仁。

13 ふと心得て、色も変はりて——帝への文だろうとすぐ気づいて、顔色も変わって。

14 后の御姉におはすれば——有仁の北の方は后の姉君でいらっしやったので。

問

(A) ——線部(1)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 親切だ 2 誠実だ 3 優雅だ 4 控えめだ 5 気さくだ

(B) ——線部(2)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 昔が思い出される 2 心ひかれる 3 思いがつのる

4 趣向をこらした

5 情愛のこもった

(C) 線部(3)の意味を三字以内で記せ。(ただし、句読点は含まない)

(D) 線部(4)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 女性たちから有仁に贈られた和歌を、みんなで批評しあつた。

2 女性たちは有仁への思いを、いろいろ工夫して和歌に詠んだ。

3 女性たちからの文を読んだ感想を、みんなで和歌に詠んだ。

4 和歌の技量を競つて、それぞれ自信のある和歌を披露しあつた。

5 恋人から贈り届けられた和歌を、それぞれが披露しあつた。

(E) 線部(5)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 内緒で 2 いつまでも 3 自慢げに 4 互いに 5 ためらいながら

(F) 線部(6)を漢字で記せ。(ただし、楷書で記すこと)

(G) 線部(7)について。有仁が琵琶や笙ではなく琴や笛を演奏したのはなぜか。その説明として最も適当な

もの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 琴や笛を上手に演奏することで、自分の演奏だと知ってほしいと思つたから。

2 琵琶や笙をみごとに演奏すると、技量を自慢していると誤解されるだろうと思つたから。

3 琵琶や笙を巧みに演奏すると、自分の演奏だと分かつてしまうだろうと思つたから。

4 琴や笛を琵琶や笙にもまして上手に演奏して、人々を驚かせようと思つたから。

5 琵琶や笙をどんなにうまく演奏しても、高い評価は得られないだろうと思つたから。

(H) 線部(8)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 もう恋などするまいと思うほど嘆くことになるだろう

2 すぐに死んでしまいたいと願うほど嘆きたくはないものだ

3 相手に仕返しをしたいと恨むほど嘆くのは愚かなことだ

4 現世がいやになって出家を望むほど嘆くのはやめよう

5 相手の求愛に応じたことを悔やむほど嘆くに違いない

(I) —— 線部(9)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 親しい者 2 気の毒な者 3 強情な者 4 美しい者 5 優れている者

(J) —— 線部(10)が暗示している人物として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 有仁 2 帝 3 后 4 有仁の妻 5 伏し柴の女

(K) ~~~~~ 線部(イ)・(ロ)は、それぞれ誰の行為か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

1 有仁 2 帝 3 后 4 有仁の妻 5 伏し柴の女

(L) —— 線部(a)・(c)の文法上の意味として最も適当なものを、左記各項の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

1 推量 2 意志 3 婉曲 4 適當 5 完了 6 断定

【以下余白】
